



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



馬小屋巡りで心の準備

中高生がクリスマス前に合宿

十二月二十二日(火)、二十三日(水)の両日、十人あまりの中高生がクリスマスを迎える準備をする「クリスマス合宿」に参加した。「大人が本気でかかわることで、若者も心を開いてくれる」との思いで一昨年からは始められたこの試み。今回は、電車やバスを乗り継いで鹿兒島市内にある教会の馬小屋を巡り、主の降誕への思いを高めていった。教区報で責任者の泉浩二神父と参加者の感想を紹介したい。

青少年担当 泉 浩二

一昨年に続いてクリスマスの前に「中高生の集まり」を開催しました。少人数の参加、短い時間でしたがそれぞれに集まることを通じての楽しさとクリスマスへの喜びを感じること



紫原教会の馬小屋の前で

とができたようです。今回は二つのことを体験できました。ひとつは鹿兒島市内の六つの教会を公共の乗り物(市バス、市電)を利用してながら巡礼し、それぞれの馬小屋・主任司祭の話を聞くことができたこと。もう一つは阿久根に

来られたベトナムの三人のシスター方と辞書を片手に(ベトナム語を日本語にまた日本語をベトナム語に翻訳しながら)巡礼できたことです。今回の「中高生の集まり」は、このように集まること

玉里教会 古田愛子

十二月二十二・二十三日、市内の中高生八人と数人のスタッフでクリスマス合宿を行いました。

二十三日は夕方から集まり、それぞれに心のこもったプレゼントを交換したり、翌日に向けて聖歌の練習をしたりしました。翌日二十三日は、ベトナムから来鹿したばかりのシスター三人を加え、バスと市電を乗りついで、今回の合宿のメインである馬小屋巡礼をしました。

訪問した先々で温かく迎えてくれたが、寒い冬の日でしたが、ほっと柔らかな気持ちにさせていただきました。各教会でお祈りしたあと、前日の夜練習した聖歌を歌いました。マザーテレサの祈りを歌にした曲で「人々のために今日一日私をお使いください」という思いを歌ったものです。この歌のように「参加した中高生一人ひとりが主の手となり、足となり、声となつて人々のために尽くすことができれば良いな」と思いました。また、神父様方にしてい

ただいたお話も心に留め置くべきものが多くありました。教区において中高生に求められる役割「福音を告げ知らせる」ということ。特に、中高生は教区の星であるということを強調され、私たちの若い力で、教区内だけでなく外へ外へと発信して主の福音を広げていかなければならないのだと分かりました。今回のクリスマス合宿を行うにあたって、私たちの知らないところでも多くの方の協力をいただいていることとあります。そのご支援があつてこそ、心に残る合宿を行うことができました。ありがとうございます。

白柳枢機卿帰天 白柳誠一枢機卿が十二月三十日(水)早朝、療養先のイエズス会上石神井修道院ロヨラハウスで、心筋梗塞のため帰天。八十一歳だった。白柳枢機卿は一九二八年に東京に生まれ、一九五四年に司祭叙階。司教叙階は一九六六年だった。東京教区補佐司教として働いた

後、一九六九年に協働大司教に、そして一九七〇年に同教区大司教に着座した。その後一九九四年に枢機卿親任、二〇〇〇年六月に大司教を引退していた。一月五日(火)に東京カテドラルで行われた葬儀ミサには、教会内外から二千人が参列し、温かい人柄で慕われた枢機卿の永遠の安息を祈った。

新風

イエスは「中風の人に『あなたの罪は赦される』』と仰ると、『起きて、床を担いで歩け』』と仰うのと、どちらが易しいか」と律法学者たちに問いました。「罪を赦す」と言われたイエスに疑問を感じたからです。それは、当時彼らは罪とは神が与える律法に違反することなので、それを赦すこと

魂の癒しと身体の癒し

魂の癒しと身体の癒しは一つのこと、それは神であるご自分から流れ出る赦しであることを表明なさった出来事でありました。一人の美容師さんからこんな話を聞きました。大好きだった恋人から

私はこの話を聞いて思いました。彼女が最初思ったのは、自分が彼女から振られたのは身体のせいだ、と。しかしいろんな話を美容師さんにした結果、人に好かれるのは身体ではないということに気付いたのだと思います。この美容師さんがこの話をしたきっかけは、美容師という職業

若い頃ほど毎日にワクワク感がなくなっている気がする。それは大人に、いや物分りが良すぎなものになってしまったからか。諦めにも似た、自分の行き先(成長)に大きな変化を期待しなくなった所謂「おじさん」になってしまったからかと寂しく感じるとまづため息。二歳三カ月

YET

若い頃ほど毎日にワクワク感がなくなっている気がする。それは大人に、いや物分りが良すぎなものになってしまったからか。諦めにも似た、自分の行き先(成長)に大きな変化を期待しなくなった所謂「おじさん」になってしまったからかと寂しく感じるとまづため息。二歳三カ月



《初めの祈り》典礼聖歌  
四〇五「ひとつになろう」  
聖霊が私たちの内にいて働いて下さるよう。

### I 第一回から第十九回を振り返って

今回で二十回目の講座を開催できたことを神様と参加者の一人ひとりに感謝しています。講座自体がどのように展開していくのか私にもまったく想像できませんでした。皆さんのご意見によって講座内容を変えながら、「朗読奉仕者・祭壇奉仕者や宣教奉仕者・教会奉仕者。聖体奉仕者等の呼び名やその発展等の理解」、「鹿児島教区が目指している宣教奉仕者の役割と使命」、「男女の区別なくこの使命を受け取ることが出来ること」等が法王庁から出された文書で明らかになってきました。

### 北薩地区宣教奉仕者(信徒使徒職)養成講座

### 求められる信徒の働きとは?

### 出水教会主任司祭 大松正弘神父

いくつかの視点を確認しておきたいと思えます。①将来における司祭不足に陥った時、慌てて養成するのではなく、今後この講座を継続した方がいいという参加者の希望があること。②また起こった出来事から聖書に立ち返っていく初期の頃進めていた方法と聖書から生き方を深めていく方法に併せて、教会の教えの内容に関する学びも行う。この二点については共通理解があるように思えます。

### II この講座の目的は?

今回、私自身どうしてもまだ皆さんに理解されていないと感じていることがありません。この点を明確にできれば嬉しく思います。それは何のためにこの講座を行っているのかという根本的な問題です。何度か参加者の中から「何がし

たいのか分からない」という指摘を受けました。この講座が始められたのは四年前に北薩地区のレデンプトール会の司祭団から「このままの教会運営がいつまで続けられるだろうか?」という危機感があつたことからです。北薩地区の司祭団の平均年齢は七十歳近く、神学生はいない状態です。現在もその状況はあまり変わっていません。あと十年もすると、現役を引退される司祭が増えてきます。二小教区に「司祭」が主任司祭としていた時代は遅かれ早かれ変更を余儀なくされていきます。その時、日曜日にミサがない小教区も出てきます。ミサが

### III 視点の変換が必要ではないでしょうか?

第一に宣教奉仕者は福音を誰が聞いても分かるように自分の言葉で伝えることと同時にその福音を生きる人であること、それは「宗教的知識を伝える宣教」から「現代世界にすでに播かれていた福音」として聖霊の働きがあることを前提として、対話を通してキリスト者の生き方を証しする宣教へ」という意識の改革を必要としています。そのためにはキリスト者としての深い内的なキリストとの深い一

### 求められる信徒の働きとは?

### 出水教会主任司祭 大松正弘神父

ないから集まらないなら私たちの信仰は生き生きとするのでしょうか? 共同体から信頼されている信徒が集まる司式が出来るように養成しておくことは急務であると思えます。鹿児島には現在三人の終身助祭が働いています。郡山司教様は終身助祭を希望される方には養成をした上でこの終身助祭叙階者を増やしていきたい望みを持っておられます。終身助祭は男性だけの役務ですが、集会所司式者・聖体奉仕者は女性にも開かれています。結局、教会共同体に司祭が不在の時でも自らの信仰を深めることができるリーダーを育てることがこの講座の主たる目的なのです。同時に自分に与えられた信

仰を深め共同体の参加者に分かち合えるように養成することだと思えます。

### IV 現代の教会共同体の問題はどこにあるのでしょうか?

第二の点是对話の中で福音を分かち合うことが求められていきます。「分かち合うこと」で自分自身も福音に生かされる。必要があるのです。パウロ六世は次のようにおっしゃっています。「教会が全世界を真に信頼されるかたちで福音化するためには、絶えざる回心と刷新によって、教会自身が福音化されねばならない。」『福音宣教』15項(一九七五年十二月八日発行) 大切なことは共に福音にあずかり、福音を分かち合うことによってお互いに変えられようか?

### 求められる信徒の働きとは?

### 出水教会主任司祭 大松正弘神父

致が求められていることを忘れてはならないと思えます。この点には対話の中で福音を分かち合うことが求められていきます。「分かち合うこと」で自分自身も福音に生かされる。必要があるのです。パウロ六世は次のようにおっしゃっています。「教会が全世界を真に信頼されるかたちで福音化するためには、絶えざる回心と刷新によって、教会自身が福音化されねばならない。」『福音宣教』15項(一九七五年十二月八日発行) 大切なことは共に福音にあずかり、福音を分かち合うことによってお互いに変えられようか?

勢(自分は救われたけど、ほかの人にまでは「いい」

**+KABAYAN SEKSIYON+**  
*"Ang Ateng Kawalan ng Pananampalataya"*

Isang katanungan na bigyan natin ng tuon ay kung "Ga ano kahalaga ang pananampalataya? Kinakailangan ang pananampalataya upang maging totoo tayo sa sarili; at sa gayo'y makamit ang ating kaligtasan, ang ating pakikipag-ugnay sa Diyos: Ama, Anak at Espiritu Santo. Sa tatlong katanungang di-lumilipas ay tumutugon ang Pananampalataya: Ano ang maari nating mala man? Ang Diyos na ating Ama at Kristong ating Panginoon. Ano ang dapat nating gawin? Ibigin ang kapwa gaya ng ginawa ni Kristo. Ano ang maari nating asahan? Ang presensiya ni Kristo at buhay na walang hanggan. Ang huling katanungan ay "Paano tayo maka titiyak sa ating pananampalataya? Ang pananampalataya ay katulad ng ating mapagmahal na pagkakilala sa ating pamilya at mga kaibigan. "Nakatitiyak" tayo sa kanilang pagmamahal at sinisikap nating makatugon dito. Gayundin, sa pamamagitan ng Pahayag ng Diyos kay Kristo, lubusan tayong nakatitiyak sa Kanyang pag-ibig sa atin at sinisikap tumugon sa pamamagitan ng biyaya ng pananampalataya. Walang tigil na nananawagan para sa pananampalataya si Kristo sa mga Ebanghelyo. Pinuri ni Jesus ang Romanong Senturyon dahil sa kanyang matibay na pananampalataya (Mt.8:8-10). Tinuya niya ang mga taong labis ang pag-aalala sa pagkain at kasuotan dahil sa kanilang mahinang pananampalataya (Mt.6:30). Hindi siya makagawa ng mga kababalaghan sa mga taga-Nazaret dahil sa kawalan nila ng pananampalataya. Sa binabagong lawa, tinanong ni Jesus ang kanyang mga nanginginig na apostol: "Wala pa ba kayong pananalig?" At sa kanyang Huling Hapunan, sinabi ni Jesus kay Pedro: "Idinadalangin ko na huwag lubusang mawala ang iyong pananampalataya" (Lu 22:32). Alam natin mula sa karanasan na ang Pananampalatayang Kristiyanong ay nakatatagpo ng iba't ibang uri ng pagtanggap sa atin, at sa loob natin, sa ating buong buhay. Kung minsan sa ating pag-iisip naglalagay tayo ng mga kondisyon para maniwala gaya ng nagdududang si Tomas: "Hindi ako maniniwala hanggat di ko nakikita ang butas ng mga pako sa kanyang mga kamay" (Jn 20:25). Sa ibang pagkakataon, ipinagkakanulo ng ating mga pagkilos ang ating pananampalataya gaya ng tatlong ulit na pagtatatwa ni Pedro: "Hindi ko nakikilala ang taong iyan" (Mt.26:72). O marahil sa ating pagtitiwala at pag-asa nagsisimula tayong magduda, katulad ng mga alagad ni Juan Bautista: "Kayo ba ang 'Siya na darating,' o maghihintay pa kami ng iba?" (Lu 7:20) Kaya higit nating pagtuonan ng pansin ang buhay pananampalataya habang nabubuhay pa dito sa mundo.



### [和善の窓から] その④ 土の霊性

弟子の子貢(しこう)が、自分はずで「人の下と為れり」、しかし、未だその「道を知らず」と問いかけています。そして、孔子は次のように答えます。「人の下たるの道はそれ猶(な)ほ土のごときか」。「人の下たるの道」とは、「これを汨(ほ)ることこれ深ければ則ち泉を出す。その壤(じょう)に樹(き)うれば則ち百穀(ひゃつこく)滋(しげ)る」ような霊性を持った人です。そのような霊性を持った奉仕者の誕生を祈り求めています。アシパ・プログラムにおける「ファシリテータ」とは、「土のごとき」働きをする人、「土の徳」を備えた奉仕者のことだと思えます。草木に、花を咲かせ、実を实らせる働きをするのです。長い冬が終わって桜前線

が北上するころ、私たちは今か今かと花を待ち、その美しさを愛でるものです。でも、だれ一人土のことなどには思いも寄せません。しかし、土はそれでいいのです。ファシリテータは、共同体の人々が「私たちがしたのだ」と思うように奉仕するのです。自分が一番、という奉仕者ではありません。ファシリテータ Fr. 松田清四朗

～和善のご案内～

▲和善の学びは直線的ではなく螺旋的に進行します。ですから、いつからでも、どなたでもどうぞ!

■於・本部三階：※月 18:30 (救済史) ※水 10:00 (救済史:第2・4) / 18:30 (Focusing) ※金 10:00 (救済史)

◆和善耕心塾ブログ  
<http://mr826.net/wazen/blog>

《分かち合い》今の教会に多くの若者たちが来ていないのは何故だと思いませんか? 分かち合いのルールに従って、五分ほどその原因について各自深めた後、グループに分かれての分かち合い。

《感謝の祈り》参加者の誰かが自分のことばで感謝の祈りをささげる。

次回は二月十四日(日)十四時から、阿久根教会で行われます。



# 川辺のキリシタン墓地で祈る

## 死者の月に加世田・枕崎教会

十一月二十九日(日)、ミサ後に主任司祭泉神父をはじめ加世田教会の信徒約二十人で川辺の新納久饒(ひさあつ)の菩提寺跡のキリシタンたちの墓地に向かつて、車三台で出発し加世田教会



ひっそり佇む宝篋印塔

から車を走らせること約三十分、川辺の中心街から約十五分、目的の地に到着した。ちよつとした坂を足を滑らせないように気を付けながら、お互いに手を貸し合いながらお墓の前に。枕崎教会の迫田さん夫妻は先に到着していた。草木の横にひっそりと佇む「心」の文字が刻まれたお墓が目に入った。並んでいるお墓には、どれも「心」が刻まれている。そして「はすの花」とも「カニ」とも読み取れる絵も刻まれている。このキリシタン墓地を訪れるこ

### 司教執務室便り

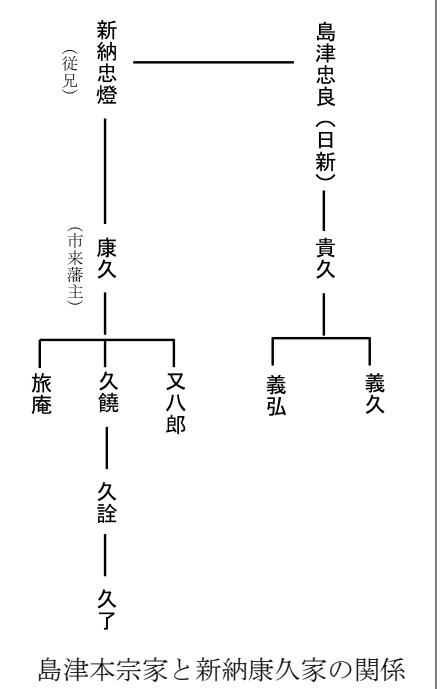
## もう一つの元年

今年には諸宗教対話にも期待が高まっている。昨年来立正佼成会の教会長さんの訪問を受けたのを皮切りに交流が始まった。とくに、十月の「お返し訪問」は印象深かった。とくに、合掌による歓迎の挨拶はタイの人々の挨拶を思い起こさせて東洋的で美しい。

先月十二日、「明るい社会作り運動」の理事会にあわせて開かれた新年会に招待された。ご住職や宮司さんたちも招かれていた。同運動の推進者は立正佼成会、仏教の一派だがフオコラーレとの親交は長く、昨年のカテドラルでのクリスマスミサにも大勢の門徒の方が参加されたことから分かるようにカトリックにはとても好意的。鴨池教会にいた頃、各宗派から代表者を送ってもらえないかとの打診があり何



度か同会に出席したことがある。「ご馳走を頂いて帰ったことを覚えています。」会食中の名刺交換でそんな話をしたら事務局長という方が親しげに笑われた。そういえばこの人たちの明るさとあのオーブンスには脱帽だ。「クリスマスミサの帰りに出口でパンフレットの回収をされたので感動」されたそう聞いてみると「物を大切にしておられる」とのこと。思いがけない評価に驚いたが嬉しかった。「鹿児島こそが諸宗教対話発祥の地」と強調するときザビエル様と忍室和尚の教理解答の様子がいふかぶが、そうではなく訪問し合って交流することなのだと感じた。そうして初めてお互いの良さも分かり親しみも増す。「対話」と頑張る前に仲良くなるのが第一。何よりも大事にしたいことは「あなたの方に逆らわない者はあなたの方の味方なのである」(ルカ9・50)という主のみ言葉だ。平和のために諸宗教の皆さんと歩みを共にしたい。先月の新年会での多くの出会いはそんな思いを強くしてくれた。



島津本宗家と新納康久家の関係

とは、今年の四月の総会で死者の月にと、行事計画の中に盛り込まれていた。二〇〇九年一月二十一日に郡山司教様が出された「川辺のキリシタン譚」の文庫をもとに、私たちはこの地を訪れ祈りをささげた。宗教の自由が認められ、人間平等の精神が定着している現代と違い、その当時、キリスト教徒になることの重みのようなものが、年代を感じさせる古い墓石を通

## 御用始めをカトリック式で

### 鹿児島銀行根占支店の金庫開き

一月四日(月)、鹿児島銀行根占支店の「新年金庫開き」がカトリック教会式で行われた。これは同支店

と久詮(ひさのり)のものと「川辺町郷土史」では、町指定文化財の宝篋印塔を久饒としていたが、それは久詮で、その右側の古く佇むものが久饒の宝篋印である。(加世田・枕崎通信員)

## 2月の会と催し

- 2日(火) 主の奉献
- 4日(木) ボッフィ神父命日 (1988年)
- 5日(金) 日本二十六聖人殉教者
- 7日(日) 年間第五主日
- 11日(木) 世界病者の日
  - ▼ 阿久根教会献堂式・11時
- 14日(日) 年間第六主日
  - ▼ 出口市太郎神父命日 (1958年)
  - ▼ 四旬節愛の献金 (四旬節中)
- 17日(日) 灰の水曜日 (大斎・小斎)
  - ▼ 四旬節愛の献金 (四旬節中)
- 21日(日) 四旬節第一主日
  - ▼ 宣教奉仕者の会・教区本部・13時30分・講話と年間行事について
- 22日(月) 聖ペトロの使徒座
- 27日(土) 東條一浩神父命日 (2001年)
- 28日(日) 四旬節第二主日

## 中高生の長崎巡礼

みことばを生きるとは…  
日時: 3月29日(月)～31日(水)  
対象: 中・高校生(新中学1年生を含む)  
定員: 20人(限定)  
参加費: 15,000円(離島からの参加者の旅費は主催者が負担します)  
締切: 3月14日(日) 厳守!  
問合せ: 加世田教会・泉まで ☎0993(52)2303

## 花蓮教区からお礼状

昨年十月、八月に台風被害に遭った台湾・花蓮教区の先住民のために教区が届けられた義援金に対して、花蓮教区の曾司教から十一月二十八日づけで次のような礼状が届けられたので紹介

## 「短信」

「鹿児島教区の皆さま、皆さまから送られた義援金に感謝いたします。あのお金はすでに最も被害のひどかった三地区に届けました。罹災者たちは心から感謝し、鹿児島教区の方々に祈りをささげることでしよう。私たちが、皆さまの愛と善意を忘れることはできません。これからも互いに祈りあいましょう。そしてよいクリスマスをお迎えください。」

### ▼連合壮年会黙想会

十二月二十八日(月)教区本部で壮年連合会主催の黙想会があった。講師は洗足教会の山根克則神父で、「あなたの歴史の中でキリストと出会う」がテーマだった。

### ▼神学生を励ます会

三学期の開始を目前に控えた一月五日(火)ザビエル教会で神学生を励ます会が開かれ、神学生やその家族、信者が交流した。

文芸

短歌

鹿児島 春山マリ子
不自由な目にも負けない友達が励まし電
話しぬくぬくノート

鹿児島 前田 儀子

クリスマススイブの祈りは深くして孫と
歌ひし聖歌すがすがし

純心学園 川上 和

亡き母の悲しみ超えて今生きるニュー
ジーランドの教え子の春

名瀬 林 常広

成人をむかえた君にキバレよとバトン
タッチし互いにはげます

俳句

純心学園 山頭 信子

降誕節近づく夜毎イザヤ読む

ザビエル 上野千穂子

一夜あけザビエル像に雪衣
南国の雪に転がる子らの声

純心学園 川上 和

桜島初日の雲間御母笑む

初ミサや八十路生かされ主に感謝
失名の賀状の主をあれこれと

鹿児島 春山マリ子

元旦に祈りを込めた初日の出
正月の花飾り見て新たなる

詩

冬木の間

田平新太郎

道行きの 清しき坂に

灯火 求め五十年

あしたに夜に慕い来し

歩幅保てし俸せを

詩えば かなしい

夜半の夢

歩幅整えあらたまの

道行き坂の 灯火を

求めもとめて十字架の

道ひとすじの刻とせむ

冬木の間を 尊びながら

催し物のお知らせ

- W・キップス神父のスピリチュアル研修会「スピリチュアルな痛み」
2月13日(土)9時~17時
ザビエル教会と教区本部2F会議室
研修費:大人5,000円/学生3,000円
申込:松村恵理(☎099-248-2412) 松村慶子(☎099-252-1644)
●スピリチュアルケアワーカー養成研修のためのオリエンテーション
2月14日(日)9時~17時
ザビエル教会と教区本部2F会議室
講師:W・キップス神父
参加費:3,000円
申込:松村恵理(☎099-248-2412) 松村慶子(☎099-252-1644)
●坂本進神父のホルステック医学黙想を通して癒しと祈りを体験する集い「気(聖霊の導き)を識別する」
2月15日(月)10時~12時
ザビエル教会1Fホール
参加費:500円
●司祭のマリア運動
毎月第4土曜日10時~15時(2月は27日に開催)
ザビエル教会1Fホール
参加費:2,000円(弁当代込み)
申込:久留ひろみ(☎090-4582-1824)
●裏辻洋二神父の御言葉と祈りの集い
3月8日(月)~9日(火)
教区本部2F会議室
申込:柳(☎090-4587-2187)

平和はイエス様がもたらします

ザビエル教会助任 G・テイエン

世界の平和について考えたいと思います。
神様はいつも私たちを招いて「互いに赦し合い、愛し合いなさい」と教えてくださいます。しかし人々はまだ互いに愛し合っていないから、この世界には悲しい出来事がたくさん起こっています。憎しみや欺

みことばシリーズ⑨

みことばに生かされる

教区助祭 四條 淳也

今迄八回に渡り「みことばに生かされる」について書いてきたが、今回は「生かされる」について一つの事例を述べてみる。

「聖書に親しもう」「こんな人、こんな時、こんなところを読んでみたら」と題して溝辺教会の信徒が長年かけて聖書の箇所をまとめてある。全部で八十一項目が掲載されているが、その内いくつかを紹介しよう。詳細は溝辺教会に問い合わせ頂きたい。

①人の一生は:「あなたがたには自分の命がどうなるか、明日のことは分からないのです。あなたがたは、

わすかの間現れて、やがて消えて行く霧にすぎません。」(ヤコブ4・14)

②求めよ:「求めなさい。そうすれば、与えられる。探すなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」(マタイ7・7)

③失望するな:「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、打たれても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされな

コリント4・8~10)

④真の平和:「イエスは言われた。『わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。』」(ヨハネ14・6)

⑤はきちがえた自由:「自由な人として生活しなさい。しかし、その自由を、悪事を覆い隠す手だてとせず、神の僕として行動しなさい。」(ペトロ1・2・16)

⑥病氣、苦痛の時:「少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。『父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。』」(マタイ26・39)

教会はここですよ! 吉野教会に十字架

ある信者は教会前で「吉野教会はどこですか?」と尋ねられたことがあるというそんな吉野教会に、「教会ここにあり」とばかりに主張する十字架が建てられた。この茶色を基調としたシックな十字架、夜には照明も灯るとか。



「イエス様、一緒にお泊まりください」とイエス様を私たちのところへ招くことです。世界にはまだイエス様を知らない人がたくさんいます。日本では、ほとんどの人がイエス様を知りません。鹿児島では何%の人がイエス様を知っているでしょうか?〇・〇一%ぐ

待望の運転免許所得!

小宿教会 ドゥン神父



一月八日(金)、小宿教会のドゥン神父がひよっこり教区本部に顔を出した。そして開口一番「昨日、自動車の運転免許、合

格」と何とも嬉しそう。聞けば、仮免許と技能試験までは順調に進んだものの、英語で臨む最後の学科試験のハードルは高く、合格までに十回の受験を要したという。一月七日、始良町の運転免許試験場での試験に臨んだドゥン神父のためには、奄美の各地でそしてベトナム人司祭たちの熱い祈りがさざざられていたか。

阿久根教会献堂式

2月11日(木)

献堂ミサ 11時 祝賀会 12時30分
※阿久根駅から教会まで車でご案内します。なるだけ公共の交通機関を利用してご来場ください。